



眼下の「三峡ダム」は灰色で、霧のために2300坪先の対岸は、かすんで見えない。揚子江は泥色の水がゆったりと流れる。その中を外国人観光客を乗せた観光船が頻繁に行き来する。

ダムの周囲には、建設労働者のための小屋が立

ち並び、あちらこちらで食事を作る煙がたなびいている。重タンクが土煙を上げて走り回っているが、その風景の大きさに埋没して、軽トラックのよつにさえ見える。2万人が働いていると聞くと、その数多くの大きさも風景に埋没しており、2万人という数字を実感することができない。

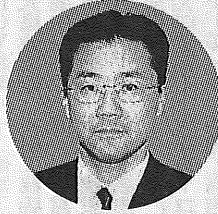
名古屋より上海経由で西安(シアン)に着いた。古くは長安と呼ばれた古都である。さらに、武漢(ウーハン)に飛行

### 中国環境共生事情③

#### 「三峡ダム①」

ハタコンサルタント代表

降籟 達生



機で向かい、そこから宜昌(イーチェン)まで車で約5時間揺られた。宜昌から、さらに車で揚子江沿いに1時間走ったところで冒頭の景色が目に見え込んだ。

これはまさに「地球の彫刻」だ。約4500年前、クフ王のピラミッドもこのようにして作られたのだろうか。秦の始皇帝が約2000年前に作ったといつ6000体の兵馬俑も脳裏に重なる。ピラミッドや兵馬俑は、君主がその力を民に

見せつけることが、建造の目的であった。ニューヨークの国際貿易センタービルも、アメリカの国家権力の象徴だ。

しかしダム建設は、これらとは目的が異なる。あくまで「民」のために洪水を防ぎ、電力を供給することが目的だ。このメリットと地球環境への影響とを考え合わせた「三峡ダム」の真の評価は、数千年後に譲らないといけないのかもしれない。

(おわり)